農で活躍プロジェクト
いっそう元気！東近江

生きがい農業のすすめ

Agriculture is my life.

地域支え合い推進協議体

いっそう元気！東近江　農で活躍プロジェクト

生きがい農業ってなに？

農で活躍プロジェクトについて

“いっそう元気！東近江”は、住民や医療・福祉の専門職、企業など様々な分野からメンバーが集まり、東近江市で生きがいを持っていつまでも住み続けられる地域づくりを考える場です。私たちは、畑や野菜づくりが、東近江で多くの高齢者の元気を支えていることに着目し、誰もが活躍できる機会や生きがい、介護予防を農を通じて広めるため、“農で活躍プロジェクト”を立ち上げました。

背景には何があるの？

平成 12 年 4 月から施行された介護保険制度によって、必要な方に安定して介護サービスを提供できる体制ができ、サービスの内容は年々充実してきました。

しかし、制度ができると、介護保険の認定を受けてサービスを利用した途端に「プロの人が見てくれるからあの人はもう任せよう」「地域から卒業して福祉施設に行ってしまった」等、地域の見守りの対象から外されてしまうということがおきてきました。

何が問題になっているの？

どんなに制度が充実しても、人との交流や地域での役割がなければ、高齢者本人の意欲低下や孤立を招き、結果として「高齢になっても住み慣れた場所でいつまでも住み続ける」ことが難しくなってしまいます。

この冊子を作った理由

農業は、道具を貸しあって農作業を一緒に行ったり、できた作物をお裾分けしたり、一緒に料理をして食べたり、様々な過程で他者との関わりがあって、経験の有無に関わらず様々な人と交流ができます。また、どこかのタイミングで誰しも活躍できる機会があります。このように、参加するすべての人が輝くことができる“生きがい農業”を紹介したいと、この冊子を作成しました。

目　次

1 …… 生きがい農業ってなに？
2 …… 花と緑がつなぐ縁と、縁の下の力持ち（農でいっそうつながったまち　御園地区 1）
4 …… マハロ！畑にあふれるいくつもの笑顔（農でいっそうつながったまち　御園地区 2）
6 …… 来て、見て、話して　おすそわけ野菜市（農でいっそうつながったまち　御園地区 3）
7 …… 「農業で人が集まるまちづくりを」野菜づくり講習会（農でいっそうつながったまち　御園地区 4）
8 …… 農は食に通ず　山菜料理講座から見えてくるもの
10 …… 施設での楽しみ　活気あふれるデイサービス農園
12 …… 野菜を育て　料理を作って　農が日常を紡ぐ
15 …… けいいちさんの包丁研ぎ

やすらぎの里　永源寺

外に出て土触ってたら、元気が出てきた。畑仲間も増えた。
立派に育った野菜を収穫するのは、最高の気分や。

おすそわけ野菜市

野菜をみんなでおすそわけすると、たくさんの人が集まった。
若い子から高齢者まで、みんなでおしゃべりするのは楽しいなぁ。

農をテーマに活動し、住民の生きがいづくりをすすめ、
人と人とのつながりが深まった御園地区を追います。

花と緑がつなぐ縁と、縁の下の力持ち

農でいっそうつながったまち　御園地区 01

前田 美千代 さん
（まち協花とみどりのサークルリーダー）

西村 一也 さん
（御園コミュニティセンター館長）

農の取り組みの始まり「まち協花とみどりのサークル」誕生

もともとは5年前に開催されたコミセン講座の‐花とみどりの教室‐が始まり。前田さんは自宅に畑はあったものの育て方が分からなかったので、この教室に参加しました。講座が終わったあとも、受講生たちが御園コミュニティセンター（以下コミセン）が借りている隣の畑を使って、野菜作りを続けました。

このサークルの楽しみは？

最初はたくさんいたメンバーも、水やりや草むしりなど野菜を育てる大変さに「汗をかくのはしんどい」と次々やめていき、現在は4人のみとなりました。この4人はなんでも話し合える関係で、メンバーの一人が「綿（わた）を作りたい」というと、他のメンバーが「やりたくない！」と言ったり。みんなで集まり、わいわいがやがやするのが何より楽しみなのだそう。

野菜や花も手間がかからないよう菊やフォックスフェイスなど、ほったらかしにしてもよいものを植えています。

いろんな世代の人と一緒に

御園地区では農をテーマにして、御園ちびっ子サークル・まち協花とみどりのサークル・元気をもらえる居場所つくりマハロ・御園地区版農で活躍プロジェクトの4つの団体が活動中。それぞれの団体は、おすそわけ野菜市などを通してつながり合うことができました。

まち協花とみどりのサークルのメンバーは、御園ちびっ子サークルもサポートしています。

御園ちびっ子サークルは0歳～就学前の子どもと、その保護者が参加する子育てサークルです。先日は、御園小学校の子どもたちも含め約50人が参加したさつまいも掘りを手伝いました。子どもたちは、自分が収穫した野菜を「自分の！」といって離しません。「子どもたちの喜ぶ顔を見るとこちらも嬉しくなる」と前田さん。とれたさつまいもは、コミセンで調理して、子どもたちにふるまったそうです。

このほか、まち協花とみどりのサークルのメンバーは、女性たちのグループ「元気をもらえる居場所づくりマハロ」のメンバーにも野菜づくりを指導しており、農を通した様々な世代との交流が活発に行われています。

ここでは、誰かが野菜づくりを失敗して全滅させたとしても、みんなが「いいよ」という姿勢でいてくれるので、気楽に楽しく続けることができるそう。

コミセン拠点の利点

学校への周知や、サークル間の調整は、コミセンが担っています。コーディネートを担ってくれることがありがたく、また活動に理解してくれるコミセン館長の存在が大きいとのことです。

（濱野・山梶）

西村館長

コミセンの畑を、みんなのふれあいの場にしたいと思っています。使い方のルールなどはかたく決めません。「何かしよか！」という人が集まり、活動が広がっていけばいいですね。

館長がみなさんに伝えたいこと

- 自治会が衰退しつつある中、今後は地区が地域全体を盛り上げないといけない。まち協はつながりづくりが役割だと思っている。
- 社会の流れで、70歳まで仕事をすることになる。これから、仕事を引退した人がどう地域デビューをするか考えていきたい。
- 各団体の次のリーダーが潰れないよう支援が必要。
- 「しなければならない」という前に、「やりたい！」と思った人が気軽に取り組めるよう、応援していきたい。

「コミセン畑がふれあいの場」　御園地区のこれまで

平成29年	「まち協花とみどりのサークル」誕生 近くの農家さんに指導を受ける 作った野菜は、小学校の子どもたちと一緒に収穫
令和 元年	御園地区版“農で活躍プロジェクト”が立ち上がる 「野菜づくり講座」「おすそわけ野菜市」開催
令和 2年	「マハロ」がヤーコンの栽培を開始 マハロが収穫したヤーコンをつかった料理教室を実施（講師は「花とみどりのサークル」メンバー）
令和 3年	「御園ちびっ子サークル」が野菜作りを開始 とうもろこしやミニトマトなど夏野菜の栽培開始
令和 4年	「コミセン畑での野菜作り」で繋がる 4グループが活動を継続

マハロ！畑にあふれるいくつもの笑顔

農でいっそうつながったまち　御園地区 02

徳本 淳子 さん
（元気をもらえる居場所つくりマハロ - 共同代表）

中村 礼子 さん
（元気をもらえる居場所つくりマハロ - 共同代表）

マハロって？

「いつかみんなでハワイに行く！」そんなふんわりとした夢を抱いて、女性たちが畑仕事や様々なことを楽しんでいるグループ『元気をもらえる居場所つくりマハロ』。マハロ（mahalo）とは、ハワイ語で「ありがとう」を意味するそうです。メンバーは30～50代の女性22名。不定期にゆるく集まりながら、いちご狩りに行ったり、料理教室をしたり、みんなのやりたいことをして元気に活動しています。

マハロができるまで

マハロが結成されたのは、令和元年6月。きっかけは、ママ友となった徳本さんと中村さんが「ママ友以外でおしゃべりできる地域のつながりがほしい」と話しあったことでした。そして、読み聞かせボランティアやスポーツリーダー、自治会役員などの活動をする中で出会った人に声をかけ、現在のメンバーが集まりました。

活動場所について、コミセンの西村館長に相談すると「地域のつどいができることは良いこと」と言って応援してくれました。アドバイスのもと、講座形式で活動を開催することを決定。8月に「元気をもらえる居場所つくり講座」を実施しました。

なぜ畑づくりを始めたの？

かつては、カエルやミミズを見つけたら逃げていた徳本さん。なぜ畑づくりを始めたかというと、メンバーに健康食が大好きな健康オタクがいたから。みんなでおしゃべりするなか、体にいいものを食べたいという声が出て、じゃあ自分たちで栽培しようという流れになりました。

1年目はヤーコンを、2年目はヤーコンとさつまいもを植えました。植え方や育て方は、同じ地区で活動する『まち協花とみどりのサークル』のメンバーに教わりました。現在はみそづくりも行っています。

楽しみの秘訣は？

「何かしないといけないということではなく、やりたいことができているのが、活動を続けられる秘訣」と語る徳本さんと中村さん。続けるのもやめるのも自由という緩さが若い世代には特に必要だと感じるそうです。

コミセンでも何かの団体の下に入ることなく、自由に活動ができているそう。メンバーにとって館長は、怒ったり否定したりせず話を聞いてくれて、愚痴も言える話しやすい存在。一方で、いつも見守ってくれていて、助けを求めたら手を差し伸べてくれる頼もしい味方でもあります。

そして『まち協花とみどりのサークル』の廣田さんは、マハロと他の団体をつなぐコーディネーターになっており、マハロの皆さんは廣田さんのことを「母であり、先生であり、友達のような存在」と慕っています。

（久保）

みなさんに伝えたいこと

私たちは、昭和生まれなので「お茶のみして、畑づくりとかしながら過ごせたらサイコー」という世代。私たちより下の代は、地域でどのように過ごしたいのかは変わってくるかもしれません。でも、「楽しいことをしながら、つながりが生まれる」という集まりの形は変わらないと思います。

ヤーコンとは？

さつまいもに似た、ほんのりした甘みが特徴のおいもさん。シャリシャリした食感で、畑のなしと言われています。

これからみんなで、何しよう？

みそづくりに挑戦！

来て
見て
話して

おすそわけ野菜市

農でいっそうつながったまち　御園地区 03

令和元年11月、ぽかぽかと暖かい秋晴れの日、御園コミュニティセンターで「**おすそわけ野菜市**」がありました。家で採れた野菜をおすそわけしたい人が、ブルーシート1枚分を使って売る野菜市。形は不揃いでも、新鮮でおいしさ抜群。何より、「これどうやって料理するの？」「焼き芋おいしい～」とおしゃべりしながらの交流に、心はうきうきします。

「安く野菜が買えた」と喜ぶ若いお母さん、喫茶コーナーでコーヒーを飲みながらひなたぼっこし、談笑するおばあちゃんたち。「こんなん売れるんやろか」と心配しながら出品した地元の方も、きれいに売れた後はふろふき大根を食べながら、にっこりでした。

みんなでおいしくいただきます

味噌だれのふろふき大根

ドラム缶で作ったコンロで焼き芋づくり

「農業で人が集まるまちづくりを」野菜作り講習会

農でいっそうつながったまち　御園地区 04

御園地区版『農で活躍プロジェクト』が、令和元年より始動しています。

初の取り組みとして、ＪＡグリーン近江女性部八日市支部と御園コミセンと東近江市第1層協議体「いっそう元気！東近江　農で活躍プロジェクト」の共催で、地区住民対象の「家庭菜園向き野菜作り講座」を開催しました。

初心者向けの講座であり「これから野菜づくりを始めてみたい」「野菜づくりのコツを教えてほしい」と、多くの方が参加されました。

冒頭に、いっそう元気！東近江の生きがい農業の推進について説明をしました。

（廣田）

専門職からひとこと

農作物を育てることは、脳の色々な機能を使うことになります。例えば、苗の育ち具合や害虫の観察をし（視覚）、これまでの経験を思い出し（記憶）、土を耕し（運動）、今日すべき事、これからすべきことを考える（理解・思考）。近所の人が上手に育てていれば情報収集（聴覚・伝達）し、良い作物が採れた時には達成感（感情）を味わう。自然相手の「農」は天候にも左右され、臨機応変な対応も必要になりますが、それが脳には良い刺激となります。収穫までにかなりの日数を要し、長期の見通しで行動していく点も「農」に従事する人が元気を保つことに繋がっているとも思います。

御園地区では、「農」を通じての交流が多くあり、収穫の喜びを分かち合い、旬の採れたて野菜を使った料理も楽しめる、「脳」が元気になる「農」の集大成とも言えます。

木下　幸代
（東近江保健センター）

農は食に通ず

山菜料理講座から見えてくるもの

箕川について

箕川（みのかわ）町は、木地師の文化が息づく奥永源寺エリアにある集落の一つ。山と川の景色がとても美しいところで、高齢化率は9割近くになっているという集落です。

『山の暮らしや文化を体験できるまち』として箕川町を再興することなどを目指し、令和3年2月に「箕川未来協議会」が結成されました。4月には中心メンバーの一人である川嶋佳代子さんが、地元で採れる山菜料理講座を実施。参加者に大変好評で、先生役となった地元のマダム達もイキイキとした様子で丁寧に教えてくださったとのこと。

その第2回を実施されると聞き、2人のアラフォー女子（筆者とその親友）が体験に伺うこととなりました。

山菜料理講座

11月中旬、山菜料理講座は「箕川集会所」で行われました。挨拶をして中に入ると、食事の準備をする人、座敷で談笑する人などそれぞれの場所で過ごしておられ、「いらっしゃい」「今日は若い人がたくさんくるね」「誰さんかな？」と暖かく迎え入れてくださいました。今日は同時に、集落の人が集まりサロンも行われる日。他に滋賀県立大学の学生さんが2人来られていて、調理方法を聞き書きしながら手伝っていました。

マダム2人は手際よく調理をしながら、いろんなことを説明してくれました。春に収穫され保存のため塩漬けにしたイタドリ。乾燥させたクサギは、2日程水に晒（さら）して戻すのだそうです。かつては、野良仕事の間に箕川に晒していたらしく、美しい川と共に生きてこられたということが良く分かります。

この間、調理の手伝いをしていない人は、座敷の机を拭き、皿や箸を並べます。すでに日野菜の胡麻和えや奈良漬け、贅沢煮等がずらりと並んでいました。参加者が家で作ったものを持ち寄られたものです。ここにくれば、誰もが何らかの役割を持っています。「むかごご飯」もできあがり、炊き立てをお茶碗にどんどんよそい、配膳します。

待ちに待った、皆でそろって「いただきます」。「これ、美味しいですね！」「あの人が作って持ってきはったんや」「こっちも食べてみい」「ほんで、あんたはどこから来たんや？」美味しい食事に、会話も弾みます。この日は小春日和でぽかぽか陽気。縁側でご飯を食べている子ども達もいました。

「役割がある」ことの意味

「実は昨日、体の調子が悪くて、お腹も痛かったから家の中を這って移動してたんよ」と、クサギ調理中のマダムがぽつり。お元気そうに見えていたので「えっ！？今日は大丈夫なんですか？」と尋ねると、「今日は大丈夫。若い人がいっぱい来てくれたから、パワー貰ってる！今日で10歳は若返ったかな」とにっこりするマダム。「じゃあ、もっと元気あげる！」と笑顔で返す学生さん。マダムは今日、私達に山菜料理を教えるという役割を果たすため、体調を整え来てくださったのです。その様子を見ながら、"役割がある"ということの意味は、こういうところにあるのではないだろうか、と感じました。

「集まり」の中にも余白を

配膳が終わり手が空いた人は、箕川未来協議会中心メンバーの一人、クミノ工房の井上さんが持ってきた「ドローン」を見学しようと外に出ました。美しい箕川の紅葉が上空から撮影できるとあって、皆興味津々です。子ども達は花を摘んで来たり、「サルが出たらしい、見に行こう！」と出かけたり。座敷でおしゃべりしながらのんびり過ごす人も。自由時間も楽しめる「余白」も、居心地の良さにつながるように思いました。

お昼が過ぎ、コーヒーを飲みながら一息ついたところで少しずつ後片付けをします。その後、せっかくなのでと「ドローンで記念撮影」をして、お開きとなりました。

（溝江）

Point! 山菜料理講座から見えてくる心構え

主催者側

- 初めて来る人にはみんなで声掛けを。
- 初めて来る人がいる場合は、全員名札（ニックネームでOK）があると、もっと早く仲良くなれそうです。
- プログラムをきっちり組まず、「余白」の時間も作ること。

参加者側

- 脱ぎ履きしやすい靴（すぐ外に出て遊びに行ったり戻ったりできるように）
- 手伝えるところは手伝う、美味しいものは「美味しい！」と声にだすこと。

冬は人参や大根、夏はキュウリ・ナス・トマトなどを収穫

専門職からひとこと

私たちは作業療法士として、障害や病のある人々を対象に東近江市で仕事をしています。作業療法は、『からだ』と『こころ』のリハビリテーションで、対象となる方々の『その人らしさ』を取り戻すために様々な手段を用います。その手段の一つとして、農作業を用いることがあります。農作業は、土や作物と触れ合うことで体の動きを促すだけでなく、意欲など『こころ』の改善にも期待されます。また、収穫して料理や販売をするなどの側面もあり、人や社会と交流するきっかけになる要素も含まれています。特に東近江市は農作業に馴染みのある方も多く、リハビリテーションの手段の一つとしても大きな力を秘めていると思います。

仲野　剛由・津田　美礼
（近江温泉病院
総合リハビリテーションセンター）

活気あふれるデイサービス農園

永源寺にあるグループホーム「やすらぎの里」。ここでは昔から、近所の広い畑ですいかやこんにゃく芋などを作っています。高齢の方にとっては、畑があることがデイサービスに行くきっかけになっているとのこと。利用者の中には、野菜の皮をむくことが得意な方も多く、梅を漬けたり、しそもみをしたりする作業も昔とった杵柄でいきいきとされています。丸いざるのようなものを持って、「梅を干さなあかんから」と言う方も。体が自然と動くのでしょうね。

車いすの方で、畑まで自力で行くことは難しくても、近くまで行くと野菜の生育の様子を見ながら会話がはずみます。野菜を作ることは自然との対話。昔の記憶を呼びさまし、自然と笑顔になるようです。

（川嶋）

野菜を育て　料理を作って

農が日常を紡ぐ

和田 真知子さん（上大森町）

介護と、畑仕事と

「41、42年ここに居てる。離婚もせずに！」と笑いながら話してくださった和田真知子さん。夫のHさんは一昨年12月に退院し、妻である真知子さんの介護を受けながら在宅で生活をされています。病気の後遺症から身体と記憶に障がいがあり、真知子さんのことは覚えていますが、お孫さんのことはわかりません。

元々、Hさんの祖母と母が畑をされていました。しかし高齢で身体が動かなくなり畑へ行けなくなったことで、近所の方から「草凄いことになってるで！」と言われるような状態に。このことをきっかけに夫婦で畑作業を始められました。ほうれん草の植え方を隣近所の方へ聞きに行ったら「何で知らんのや」と言われるくらい、畑作業のことは何もわからなかったそうです。

農作業について

Hさんが元気なころは、機械を扱うことが好きなHさんが草刈機を動かし、耕運機に乗って畑や田んぼをされていましたが、今はできないため、真知子さんが近所の方に使い方を教えてもらい、作業されています。

夫婦で農作業をしていた時は、季節に合わせて田畑に出て、出荷まで行っていたそうですが、今は一人ではそこまでできないと、家族で食べられる分だけを育てておられます。それでも、大根、白菜、赤かぶ、黒豆、白豆、ほうれん草、玉ねぎなど、その種類は多様です。

「田んぼや畑をする中で、収穫の時が楽しみ。介護をしながら、毎日農作業をするのは大変。それにコロナで大変な時やけど、こんな時だから町内で助けてくれる人とのつながりが大事」。とおっしゃっています。

農作業を継承していく

畑を始めた頃は何も知らなかった真知子さんでしたが、今では「トマトができひん」「ニンニクの肥料はいつやる？」など周りから聞かれることがあるとか。自分も「下手でもいいからやってみ」と教えてもらったように、聞かれた時には、メモを渡し丁寧に教えています。

今は30キロの米を持つことができますが、持てなくなったら農作業続けられるかな……と心配になることもあるそう。

料理

料理上手な真知子さんは、旦那さんが働いていたときには、残業をする旦那さんと職場の方（9人くらい）に食事を届けられることもありました。旦那さんには、簡単な夜食でいいと言われながら、家で採れる野菜などを使って3、4品の心づくしの料理をこしらえました。

「料理教室はせえへんのか」と言われたことをきっかけに、食品衛生管理の資格を取得。盛り付ける時には器選びまで気を配り、毎日料理を楽しんでいます。

ほうれん草は、これまで傷んだら捨てていましたが、友人に冷凍したらもっと食べられると教えてもらい、早速実践。「今、お金で何でも買える時代を生きているけど、昔の人は色々工夫してはったんやろうな～」と日々気づかされることが多いそう。

嬉しかったこと

「おいしい！って言ってもらえることが何より嬉しい」。

昔よくお寿司を作ると、近所の方へ配っていた真知子さん。ある時から配るのをやめると、

「お寿司、何で持ってきてくれんのや？留守にしていても欲しい。死ぬ前でもお前のお寿司が食べたい」と言ってくださる方があり、とても嬉しく、またやろう！と思えたのだそうです。

真知子さんは、介護から手が離せる時間に、畑や料理の他にも、手芸や書道など様々な趣味を楽しんでいます。幼稚園に、ナップザックや牛乳パックで作ったケーキの置物をプレゼントしたことも。

「いろんなことがあったけど、曲がらずにここまで来ることができた」。

『生きてるって楽しいことがあること』と、無理をせず上手に日々の暮らしに喜びを見つけ出す真知子さん。どんなことも前向きに乗り越える達人の生き方を、学ばせていただきました。

（池尻）

真知子さんのレシピから

サツマイモのレモン煮

① サツマイモを1センチ角に切り、コトコト煮ます。

② 氷砂糖で味付けして、レモン汁を落とします。

③ 輪切りにしたレモンを飾ります。

ネギの根の油あげ

ネギの根、いつも捨てていませんか？ネギの根には、疲労回復効果があります。

① 白いところからチャクンと切り、根を洗います。

② 水気をキッチンペーパーで取り除き、油であげます。

③ 新聞紙にとって、お塩をプルプルと振り食べます。

根元は石があるので、食べないで～。

ほろ苦い、ポテトチップスの細い版です。

専門職からひとこと

真知子さんは在宅介護もし、野菜作りもし、料理も得意ですごいな！と思うことばかりでした。でも、色々とお話しさせてもらうと悩みごとやご苦労もあったと。それでも、野菜作りを通じてつながりもあり、助けてもらって今があると。

介護のことは尋ねてばかりよ！と笑顔いっぱいに言ってくださる真知子さんですが、私の方は料理や野菜のことをいつも教えてもらって、知らないことを知るってことは、すごく楽しいことだと感じています。

中野　さおり
（田中ケアサービス
八日市支援センター）

これも いきがい農業！

けいいちさんの包丁研ぎ

永源寺地区でのお話です

ぱくぱくキッチンカー「健康教室」

私たちは、つながることで安心と信頼を育み、ともに歩むことで笑顔あふれるくらしを創造し、次世代へと継承していきます。食べること「食生活」は、健康づくりの大切なこと。
コープしがでは、「地域での健康づくり」を推進し、“キッチンカー”を使って人が集まる地域の場に“健康教室”を出前します。

「こんな時にご活用ください！」

◎ **健康づくりを応援する**
レシピのお話を聞いていただけます。簡単でお家にある食材で作れる、身体に良いレシピをご紹介します！

◎ **地域での健康づくり推進に『コープしがキッチンカー』がお役立ち！**
クイズで楽しく学べる参加型のプログラムです！社会福祉協議会様と連携しています。

◎ **出前型の健康教室です**
お集まりの会場まで、出張費無料で伺います！

ちょっとうれしいプレゼントもあるよ！

「健康教室」参加者様よりお寄せいただいた感想

◆楽しく学習できました。地域の高齢者の集まりにぜひお願いしたいです。

◆健康教室に出かけることは運動になりますし、みんなと一緒に話を聞いておしゃべりする事も心の健康になります。健康教室は集いのきっかけとなりました。ありがとうございました。

【ご依頼・問合せ先】
生活協同組合コープしが（〒520-2351　野洲市冨波甲 972 番地）
組織広報部　キッチンカースタッフ（末崎・石崎）まで
TEL　0120-668-825（9:00 ～ 15:30）
FAX　0120-096-502（24 時間対応）／ e-mail paku2k@coop-shiga.or.jp

編集委員（いっそう元気！東近江　農で活躍プロジェクトメンバー）

川嶋 冨夫（生活支援サポーター絆）
山本 深雪（生活協同組合コープしが）
中野 さおり（田中ケアサービス八日市支援センター）
廣田 美代子（ちょこっとサポートみその）
溝江 麻衣子（東近江市役所まちづくり協働課）
山梶 瑞穂（永源寺図書館）
松浦 純子（湖東図書館）
濱野 智（東近江市役所長寿福祉課）
池尻 雅（東近江市社会福祉協議会地域福祉課）
久保 晃（東近江市社会福祉協議会地域福祉課）

市民農園で気軽に「生きがい農業」にチャレンジ！

「畑仕事に興味はあるけど、家に畑がなくて……」「誰に畑を借りたらいいのか分からないし、色々道具を揃えるのも大変そう」という人にオススメなのが、平成７年に開設され、東近江市が管理している市民農園！「農作業が初めて」という人も利用しやすいように、農具（無料）や小型管理機（有料）の貸し出しも行っています。

- **名　　称**　…　ファームトピア蒲生野　いきいき農園
- **所 在 地**　…　〒529-1534　東近江市鈴町 1522
- **管 理 者**　…　東近江市
- **管理人滞在日**…水、金、日曜日（年末年始 12 月 29 日～ 1 月 4 日を除く）
- **申込期間**　…　随時募集しています
- **利用期間**　…　毎年 4 月に契約更新を行います
- **農園付帯設備**　…　管理棟、農具ロッカー棟、トイレ、駐車場

農園区画と使用料

	農園区画	使用料（市内居住者）	使用料（市外居住者）
小区画	35㎡（5 m × 7m）（99 区画）	13,800 円／年	15,000 円／年
中区画	70㎡（5 m × 14m）（8 区画）	23,000 円／年	25,000 円／年
大区画	325㎡（10.5m × 31m）（1 区画）	57,500 円／年	62,500 円／年

【申込み・問合せ先】
東近江市八日市緑町 10 番 5 号
東近江市役所農林水産部農業水産課
TEL　0748-24-5561

花いっぱい運動

住んでる町をお花でいっぱいにしてみませんか？
お住いの自治会でもやっているかもしれません。
自治会で一度ご相談のうえ、ご活用ください。

2021 年度は 55 自治体が参加し、いろんな場所に植えてくださいました！

【問合せ先】
東近江市建部北町 531
河辺いきものの森
TEL　0748-20-5211

編集・発行：**地域支え合い推進協議体**
いっそう元気！東近江 農で活躍プロジェクト
発行日：2022 年 3 月
問い合わせ先：東近江市社会福祉協議会　地域福祉課
NTT　0748-20-0555
IP　050-5801-1125

＊この冊子は、東近江市生活支援体制整備事業の委託を受けて作成しています。